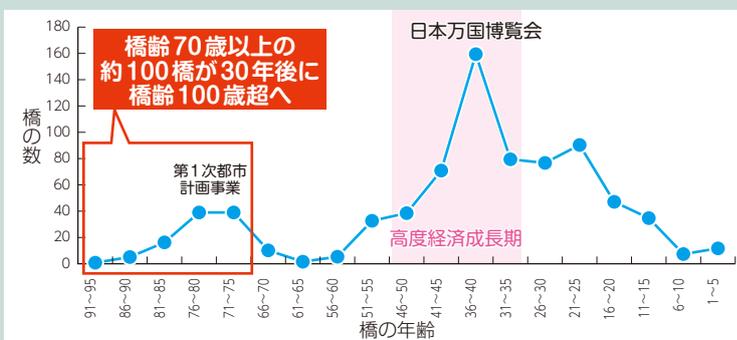


現状と課題

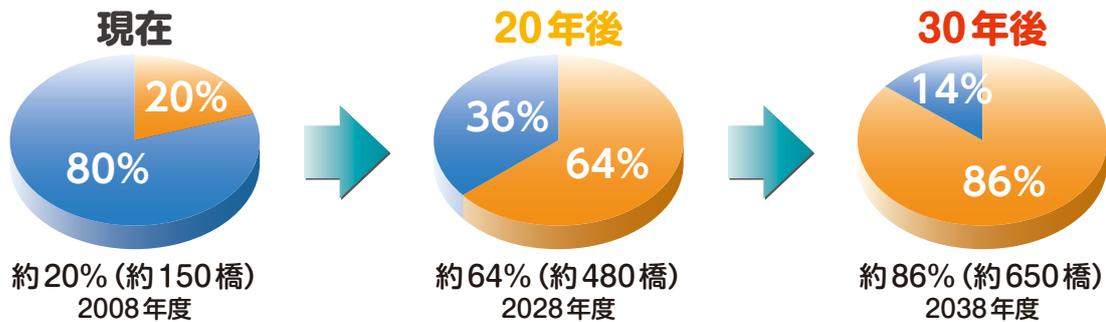
1. 急速な橋の高齢化

大阪市では早くから都市基盤施設整備が進められ、橋齢50歳以上の橋の割合は、全国平均約6%に対して、約20%と高く、さらに、戦前に架けられた橋齢70歳を超える橋が約100橋にのぼり、今後は橋の架替や維持管理費などの、事業費の増大が予想されます。



大阪市最高齢の本町橋
大正2年(1913年)完成

橋齢50歳を超える管理橋の割合



2. 限られた財源

近年、大阪市は非常に厳しい財政状況におかれ、これまで以上に効率的・効果的な事業実施が求められています。

このため、新橋建設などの改築費を抑えることによって対応を行ってまいりましたが、維持管理費については、安全性を確保する観点からこれ以上削減しづらいレベルにまで達しており、新たな維持管理手法の確立が求められています。

橋梁事業費の推移



3. 求められる安全・安心

平成20年度に実施した市民アンケートでは、橋の耐震対策や修繕、古い橋の架替などの取り組みの優先順位が高い結果となっており、市民の『安全・安心』にかかる取り組みへの期待の高さが読み取れます。

市民の求める橋に関する取り組み

